

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

## 【福島県いわき市の3箇所で弦楽四重奏、そして金管クリニック】

今回の震災では、さまざまな団体がそれぞれの特色を生かしてボランティア活動を行っていますが、被災地いわきに定期的に「青空レストラン」を派遣しているケータリングの会社から、一緒に演奏をプレゼントしたいという申し出を受け、避難所だった学校を訪問しました。この会社は自ら「たつみ皆援隊」と名乗り、会社の敷地内で地域の方々とともにバザーを行い、その収益をもとにいわき市の学校の避難所の一角に「無料本格イタリアンレストラン」を開設、蝶ネクタイをしたウエイターがテーブルクロスのかかったテーブルに陶器の食器で温かいコース料理を提供するという、洒落たサービスを提供してきました。被災者を「炊き出し」漬けにさせない、食事の「文化」をとりもどしてあげたい、という心意気に私たちも感動しました。避難所はすでに閉鎖されていますが、この学校の校長先生を通じて、10月20日と21日に二つの学校と集会所で演奏をプレゼントしました。弦楽四重奏団に同行し、江名中学校の金管バンドに楽器指導を行った伊波睦（トロンボーン奏者）によるレポートです。

## ♪震災の爪痕、所々に…。弦楽の伴奏での校歌齊唱と金管クリニックで中学生励ます

10月20日午前8:00東京駅口ケバス出発、目的地は福島県いわき市。常磐道のインターをおりたとたん車がジャンプ。ああこれが地震の爪痕なのだ。風景は、ぼけっとしていると地震があったなんて気がつきません。予定より早く着きそうなので、小名浜の「アクアマリンふくしま」へ。津波のため割れた分厚いガラス水槽。瓦礫で作られた野外舞台。テレビでさんざん観たことが現実におこっているのです。次にこのコンサートの世話役の一人Wさんの家に途中下車。被災者であるご本人から説明がありました。海沿いのこの家は幸いにして残りましたが、市民へ津波警報を伝えるため犬を繋いだまま自宅を出たためワンちゃんは3日後に犠牲になって見つかったとのこと。

その後、避難所になっていた高台にある江名中学校に到着。この体育館には6月まで150名の方が暮らしていました。そこへ救援物資を運び炊き出しを続けていた「たつみ皆援隊」が今回のコーディネーターで、日本フィルに演奏を依頼。コンサートが実現しました。

今回の弦楽四重奏のメンバーは日本フィルOBのヴァイオリニスト三本克郎、ヴィオラ山下進三、チェロ奈切敏郎、それに現役ヴィオラ新井豊治のお嬢様、新井布実さん。日本フィルは東京定期演奏会のため、代演で応援に駆けつけいただきました。到着後休憩もとらず、体育館の音響の良い所を探し大急ぎで舞台セッティング。舞台といっても体育館の運動スペースに椅子と譜面台を4セット並べるだけ。体育館を横に使うか縦に使うか



(アクアマリンふくしま)



(瓦礫で作られた野外舞台)

で音響効果は違うのです。江名中学校では横にしました。

すでに用意してあった父兄用の椅子も並びかえます。演奏者はリハーサル中。リハーサルで重要なのは校歌の打ち合わせです。先生にテンポの指示を仰ぎます。学校から送っていただいたピアノ譜を元に各自音を拾っていきます。弦楽四重奏用の楽譜はないため、ピアノ譜からの採譜には苦労します。



今回のプログラムは、モーツアルト:ディベルティメント、クライスラー:美しいロスマリン、愛の悲しみ、愛の喜び、ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」より第1楽章、レノン&マッカートニー:イエスタデイ、校歌。

45分しっかり聴いていただきました。生徒代表の挨拶は「津波で家は壊れ、町は閑散として、とてもせつない思いで暮らしていました。しかし、今日はじめて、ピアノや吹奏楽部の演奏でない、弦楽器で演奏される校歌と一緒に歌って、気持ちがフレッシュになりました。また頭を切り替えて、前向きにものごとに取り組んで生きたいと思います。」原稿も見ず、自分のことばで、顔をしゃんとあげてはっきりと話してくれ、私たちの心にも響くものでした。